

CKJSだより

第56号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

自分を好きになること

子どもたちが生きる希望を見出し、スランプから抜け出し、様々な壁を乗り越えていく一番中心的なきっかけは、「自分を好きになる」ことだと私は思います。

私たちは、どんなに自暴自棄にある子に対してでも、全力を挙げて「自分を好きになる」手助けをしてやらなければいけません。そのような子に対しては、「こんなことでいいのか。君は輝くために生まれてきたんだよ！」という、本当に飽きることなく繰り返される叱責や励ましが必要です。その姿勢が、やがて子どもたちが“役に立つ自分”を発見し、立ち直る原因となっているのです。

教師や親の大切な役目は、子どもたちに「自分を好きにさせる」ことだと私は思います。子どもたちは、「やった！」という言葉が好きです。試験でいい点数が取れた時、部活動の大会で勝った時、また、身体測定の時でも身長伸びた子があちこちで「やった！」と言っています。



自分にもこんなことができたのかという新しい自分の発見、自分もまんざらではないという実感、自分が大きくなったという手ごたえ……。子どもたちにとって、こんなうれしいものはないのです。

それに加えて、親や教師、周りの人々の「よくやったね」の一言が添えられれば、子どもたちの心に喜びがエコーのように広がります。そして、それは子どもたちを前に進めるエンジンとなるのです。

私たち大人は、全力をあげて子どもたちの「自分発見」に手を貸してやり、「やった！」という喜びを共有して、子どもたちにそのエンジンがかかるようにしてやりたいものです。

※ 本日、後期の学校当番表を配布しました。ご確認ください。引き続き後期もご協力のほどよろしく申し上げます。